

平成30年9月

普及活動報告

白大豆「オオツル」の大規模生産を支援 (亀岡市・南丹市：6～9月)



「オオツル」栽培状況
(南丹市八木町)

京都市右京区で大豆卸業を営む(株)北尾吉三郎商店が、南丹市八木町で白大豆生産を始めて3年目となり、農業生産を行う新会社を設立して、さらなる大規模生産を目指しています。普及センターは、規模拡大に取り組む中で問題となる排水対策や病虫害防除など、栽培技術の支援を行っています。

京都産白大豆を京都の味噌製造業者に卸すことで、正真正銘の京都産味噌の実現を目指し、その需要に応えるために、数年後には30haにまで拡大される計画です。生産技術の習得支援だけでなく、大規模生産に欠かせない播種時期や播種密度の最適化という課題について、普及計画に取り上げ、解決を支援しています。

場 所 亀岡市、南丹市八木町
出席者数 3名

作付面積 平成28年 0.7ha
平成30年 10ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年9月

普及活動報告

～農福連携の推進～ 野菜等栽培を支援 (亀岡市：18・26・28日)



シシトウの収穫適期判定



水稲バインダー収穫支援

A型障がい者就労支援施設「たのしくはたらく」で栽培されている水稲や野菜の作業につき、指導を行いました。

黒大豆（エダマメ）及びシシトウ（契約栽培）について、収穫に向けた管理についてアドバイスをしました。また、秋冬向け野菜については、播種・定植時の虫害対策の重要性を説明しました。

水稲の雑草多発等によってコンバイン収穫ができなくなったため、バインダー保有農家を紹介し、収穫作業ができるよう支援しました。

今後も要請に応じて、ほ場特性に応じた品目の選定や栽培管理技術のアドバイスだけでなく、経営方針にまで踏み込んだ支援を行う予定です。

場 所 亀岡市東本梅町
出席者数 4名

管内の他の3つの就労支援施設のスタッフ4名が、普及センターで実施した就農サポート講座を受講しました。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年9月

普及活動報告

瑞穂大納言小豆の生産拡大に向けて ～早まき摘心栽培の有効性を検討～

(京丹波町：19日)



早まき摘心後の生育を調査

小豆販売量 (H29JA京都瑞穂支店) : 7,789kg
京丹波町農業技術者会瑞穂地域部会は京丹波町、JA、農業共済、局、普及センターで構成

京丹波町瑞穂地区特産の瑞穂大納言小豆は、梅雨時期に当たる7月中旬がは種適期ですが、この時期は天候を見ながらの作業となり、地区内の大規模経営体を目指す生産拡大のためには、可能な限り早くからの播種が有効と思われます。ただ、小豆は早まきすると、植物体ばかりが大きくなり、莢付きが悪くなる「蔓化(まんか)」のリスクが高まります。そこで、京丹波町技術者会議では、早まきした小豆の摘心による蔓化防止と着莢数の確保について、その有効性を検討しています。今回、7月3日に播種し、8月23日に摘心を行った小豆について、草丈や分枝数等の調査を行いました。

早まきでも摘心によって蔓化、倒伏が抑えられ、慣行播種と比較して分枝数が確保できることを確認しました。今後は、摘心後に発生した分枝にどの程度莢が着くのか、また、収量を調査し、その実用性について検討を進める予定です。

場 所 京丹波町下大久保
出席者数 4名

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年9月

普及活動報告

花菜の安定生産に向けて

(亀岡市：25日)

普及センターでは、初期生育の確保と、12月から3月にかけての安定出荷を目標に、高畝栽培による排水の徹底及び播種を複数回に分けるリスク分散を推奨しており、生産者は9月～10月にかけて播種（定植）しています。

生産者の栽培状況を確認したところ、今年は9月初旬からの断続的な降雨により、6名中5名が未だに播種できない状況となっていました。そこで雨の合間に定植でき、また、一定の初期生育量が確保できる移植栽培への転換や、気象予報を元に、天候に応じた対策を呼び掛けました。

「降雨が続き、ほ場の準備ができない」「苗を作ろうか迷っている」などの声が聞かれ、不順な天候に苦慮している様子が窺えました。今後も普及センターは、花菜の安定生産に向けて支援します。

場 所 亀岡市曾我部町、旭町、
大井町

農 家 数 8名（巡回）



降雨の合間を縫って播種されたほ場

平成30年度 JA京都京野菜部会亀岡支部花菜部会
生産者18名、面積149a（未確定）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年9月

普及活動報告

第8回京都丹波就農サポート講座 ～先進農家の実践事例を学ぶ～

(全域：26日)



賀茂なす栽培の難しさの魅力を知る



栽培施設利用上の工夫について学ぶ

管内の賀茂なす、ネギ、施設栽培のキュウリおよびトマトの栽培ほ場を訪問し、農作物の栽培管理方法および品目選定のポイントについて、先進農家から説明を受けました。

参加者からは、「常に収穫できるような品目を作る重要性について考えさせられた」「天候に負けないよう、自分で施設等を工夫することの大切さが分かった」との声が上がりました。普及センターでは、引き続き第10回（最終回）まで実践的な基礎技術が習得できるよう支援していきます。

場 所 亀岡市大井町、河原林町
出席者数 28名

今年度の受講生は21～68歳（平均40歳）の29名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障がい者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター